2050年を目標とした大阪全体のまちづくりの方向性を示す「大阪のまちづくりグランドデザイン」の推進に向けて、現在進められている具体的な取り組みを紹介する「大阪のまちづくりグランドデザイン　まちづくりセミナー」が、１月29日に大阪市北区のグランフロント大阪のナレッジシアターで開催された。大阪のまちづくりに関心を持つ事業者や団体の、まちづくりへの参画促進を目的として、基調講演や会場に設けられたブースを通じて、市町村などの取り組みが紹介された。

大阪のまちづくりグランドデザイン　まちづくりセミナー

行政だけでなく住民や企業とも共創する時代に

基調講演　「新たな価値を共創する大阪のまちづくり」

大阪公立大学大学院工学研究科　嘉名光市教授

グランドデザインが目標とする2050年に向けて、これからのまちづくりはどうあるべきかを改めて考えるタイミングが来ています。そうした中で、ＪＲ大阪駅前のうめきた2期の公園を中心としたまちづくりのような新しい挑戦が広がっています。その代表例が、なんば広場です。

十数年前に地元を中心に南海難波駅前を歩行者主体のにぎわい空間にして観光客を迎えるというアイデアが生まれ、社会実験をしながら、あるいは議論をしながら今に至りました。まちづくりのスタイルが共創型に変わってきたのです。世界のまちづくりも、そのように変わっています。

米国ニューヨークの事例です。タイムズ・スクエアは地元のエリアマネジメント団体と交通局の思いが一致して道路を封鎖し、車中心から人中心の広場になりました。ブライアント・パークは荒れた公園でしたが、エリアマネジメント団体と行政が連動しながらリニューアルに努め、いすとテーブルを置いて誰もが自由に使える新しいスタイルの公園へと再生しました。

官民の連携で通りに面した飲食店が歩道や道路に席を設けるオープンレストランが一般化して、道路空間の使い方も大胆に変化しています。鉄道の高架跡を公園にしたハイラインは観光名所にもなっています。

欧州ではバルセロナで伝統的な街区を再編し、その内側を歩行者専用にアップデートしています。ロンドンは古いまちなので、歩車共存で道路空間を再編しています。豪州ではメルボルンが20分の圏内で生活に必要な施設に移動できるまちを目指しています。

世界のまちづくりを見ていくと、人中心のまちづくり（車から人へ）、都心の再生、ネイバーフッド（あらゆるものにアクセスできるコンパクト生活圏）といったキーワードが出てきます。行政のみならず、住民や企業の皆さまと一緒に考えていく時代になっているのです。

共創型まちづくりの事例を紹介します。東急は新たな郊外沿線モデルとして生活者起点、多様な企業や行政との連携を掲げ、多摩田園都市で歩きたくなるまちを目指しています。

京阪枚方市駅周辺の再開発は単にビルを建てるだけで終わらせるのではなく、公共施設の整備や歩行者空間のネットワークなど、さまざまなことを一体的に、まさに共創型まちづくりを進めようとしています。大阪商工会議所は大阪府南部の商工会議所や自治体と連携しながら地域の活性化に取り組んでいます。

行政が中心となって考えた将来ビジョンと、民間事業者や企業の考えをうまくマッチングさせながら新しいまちづくりにつなげていくことが重要です。

各地のまちづくり情報発信を

――あいさつ

大阪都市計画局・尾花英次郎局長

大阪のまちづくりグランドデザインを令和４（２０２２）年12月に策定し、現在、このグランドデザインを羅針盤として多様な主体との連携の下、さまざまな取り組みを進めています。

府内市町村とまちづくりの方針や成果、直面する課題などを共有する中で改めて実感したのは、民間事業者の皆さまの参画を得て、そのノウハウや活力を存分に発揮していただくためには、まず各地のまちづくりや開発事業に関する情報を発信し、これに関心を持っていただくことが重要だという点です。

本日のセミナーが多様な主体との連携によるまちづくりの第一歩となり、民間事業者の皆さまの参画につながることを祈念します。

事例紹介「大阪のまちづくり」

堺都心周辺エリアの活性化に向けた取組

堺市建築都市局都心未来創造部都心活性化担当　竹中正弘主幹

堺市

堺市は、２０４０年までの取り組みの方向性を示す「堺都心未来創造ビジョン」を昨年5月に策定し、将来像を示した。

南海高野線堺東駅エリアでは、駅街区や瓦町公園周辺の更新や魅力的な通りの形成、南海本線堺駅・堺旧港エリアでは、堺の玄関口として拠点性を強化するとともに、堺旧港の海辺を活かした賑わい・交流空間の創出、環濠エリアでは、水辺を活かした空間として環濠テラスの形成に取り組む。また、各エリアの地域資源を活かした魅力を結ぶＳＭＩ（堺・モビリティ・イノベーション）プロジェクトの推進に取り組む。

泉州山手線沿道のまちづくり

岸和田市まちづくり推進部都市整備課　氏原裕祐主幹

岸和田市

泉州山手線は、岸和田市の中心付近を横切る都市計画道路。泉北高速鉄道和泉中央駅へとつながる山手の交通軸として期待される中、約2㌔の区間について大阪府による事業化が決定している。

周辺や沿道のまちづくりでは、道の駅「愛彩ランド」や蜻蛉池公園に隣接している「ゆめみヶ丘岸和田」において都市・農・自然が融合したまちづくりを展開している。山直東地区では、地区のまちづくり研究会が昨年7月に基本構想および基本計画を策定。賑わいや産業、豊かなみどり、防災性をコンセプトにしたまちづくりが始まろうとしている。

門真市庁舎エリアのまちづくり

門真市まちづくり部庁舎エリア整備課　阿部武志課長

門真市

門真市は、京阪古川橋駅周辺、庁舎エリア周辺、京阪・大阪モノレール門真市駅周辺、南東地域などで、さまざまなまちづくりに取り組んでいる。

庁舎エリア整備では、昨年6月に基本構想を策定。「みんなで描き、みんなでつなぐ、このまちがキャンバスに」というコンセプトを掲げている。

エリアの東側に新庁舎を、西側には防災機能を持つ広場を配置する。事業はプラン・デザイン・オペレート（ＰＤＯ）方式を採用し、計画事業者（Ｐ）、設計事業者（Ｄ）および運営事業者（Ｏ）を一括選定。相互連携しながら進めていく。

森之宮旧庁舎の活用について

都市再生機構西日本支社都市再生業務部事業企画課　安田和弘課長

UR都市機構

都市再生機構（ＵＲ都市機構）は、大阪市のうめきた2期区域、堺市の大和川左岸（三宝）など、大阪府内でさまざまな都市再生に取り組んでいる。

ＪＲ・大阪メトロ森ノ宮駅と大阪城公園の近くにある西日本支社の旧庁舎を活用し、まちづくりへの貢献を目指している。

昨年12月にまちづくりの関係者らが集まり、大阪城東部地区のフィールドワークを行うなど、その土地が持つ潜在的な魅力を引き出すことを考える機会を創出した。旧庁舎をまちづくりに携わる人の交流拠点とする構想もある。

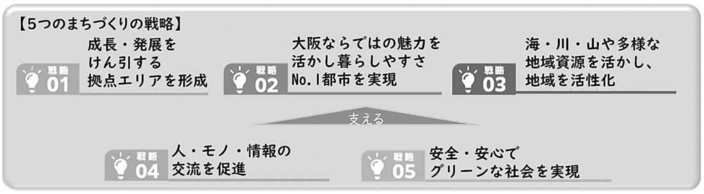
大阪のまちづくりグランドデザインの紹介動画はこちら

大阪のまちづくりグランドデザインの紹介動画を公開しています。以下のＵＲＬ（https://www.youtube.com/watch?v=Tk6BG1RPO_w）または下の2次元コードからご覧いただけます。

大阪のまちづくりグランドデザイン

- 大阪・関西万博等のインパクトを活かし、東西二極の一極を担う「副首都」として、さらに成長・発展していくため、大阪都市圏全体を視野に、2050年を目標として、大阪のめざすべき都市像やまちづくりの方向性、その推進の取組等を示しています。
- このグランドデザインを羅針盤として、民間の活力を最大限引き出しながら、多様な主体が一体となって、大阪全体のまちづくりを推進し、便利で住みやすく、そして成長する大阪をめざします。

【まちづくりの基本目標】
未来社会を支え、新たな価値を創造し続ける、人中心のまちづくり



【5つのまちづくりの戦略】

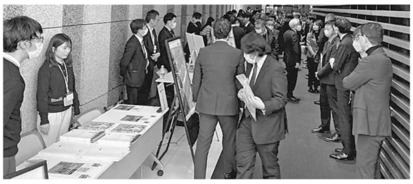
戦略01　成長・発展をけん引する拠点エリアを形成

戦略02　大阪ならではの魅力を活かし暮らしやすさNo.1都市を実現

戦略03　海・川・山や多様な地域資源を活かし、地域を活性化

戦略04　人・モノ・情報の交流を促進

戦略05　安全・安心でグリーンな社会を実現



まちづくり紹介ブース　説明や資料配付

会場には大阪府内で進む市町村などのまちづくりの事業や取り組みを紹介する「まちづくり紹介ブース」を設置。担当者による具体的な内容の説明や資料の配布などが行われた＝**写真**。設置したブースは以下の通り。

堺市「堺都心周辺エリアの活性化」▽岸和田市「泉州山手線沿道のまちづくり」▽門真市「門真市庁舎エリアのまちづくり」▽豊中市「大阪国際空港周辺緑地の利活用」▽摂津市「高台まちづくりの推進」▽柏原市「大和川河川空間のオープン化」▽富田林市「金剛駅周辺のウォーカブルなまちづくり」▽ＵＲ都市機構「森之宮旧庁舎の活用について」▽大阪都市計画局「新大阪のまちづくり」

主催　大阪府、大阪市、堺市
＜企画・制作＞産経新聞社メディア営業局